

あかるいまち21

No.1199 2018年12月5日 組合員活動推進課 082-532-1264

	12月累計	2018年度
組合員ふやし	23人	985人
出資金ふやし	33万円	9,065万円
純増	▲28万円	711万円

西日本豪雨災害支援

～坂町仮設住宅健康チェック活動実施報告～

11月24日(土)12時～13時、坂町平成ヶ浜仮設住宅集会室にて被災者の方を対象に健康チェックを行いました。スタッフの参加は、安芸中央支部より6名、職員5名(看護師2名)、民医連より1名の計12名でした。この日は、みやぎ生協の皆さんが被災者への炊き出し支援に来られ、同時に中央保健生協でも健康チェックでの支援ができないかとの要請を受け、参加に至りました。健康チェックと併せて、被災状況とニーズの聞き取りと仮設住宅に生協の資料とお手紙配布も行いました。



また、坂町平成ヶ浜の仮設住宅はボランティアによる支援活動も少なくないが、小屋浦のみなし仮設では支援活動が無いようです。そのため、1月以降に生協ひろしまで「つどい」を実施する計画とのことで、中央保健生協も健康チェックでの支援を行っていただきたいとのことでした。

<対話内容>

- ・3か月の避難所生活の中で食事が進まず痩せてしまった
- ・仮設住宅入居期間の2年が過ぎたらどうしたらいいかわからない
- ・血圧も毎日図っていたが豪雨災害で流されてしまいできなくなった
- ・小屋浦の家は全壊になり、10月から仮設住宅に入った。それまでは避難所生活。
- ・避難所生活では咳ひとつをすることも、周りを気にしてできなかった



観音包括「地域のくらしや介護の現状と課題」社保連絡会

理事会社保平和委員会は、11月30日(金)に第3回社保連絡会を行ないました。前半の30分余りは、一般公開での学習会としました。講師は、観音地域包括支援センター長の三好典子氏にお願いしました。内容は、「地域のくらしや介護の現状と課題～くらしの「困った」をキャッチする力～」と題して、包括支援センターの事例を通して「支えあうしくみづくり」等についてお話しいただきました。

参加者は24名と、介護をめぐる問題の関心の高さがうかがわれました。アンケートでは「観音地域だけでこんなに?! 将来がすごく不安になりました。大変なお仕事にびっくりです。」など、改めて地域の具体的な事例に地域でいろいろな問題がおこっていることが実感されました。続く社保連絡会では、地域・支部で起こっている様々な問題をキャッチし情報を共有していくために「あれ?おかしい」シートを事例報告用紙として活用していくことを確認しました。保健生協も様々な取り組みを通じて、組合員さんと共に地域社協や地域包括支援センターとも連携して、地域の支えあうしくみづくりに貢献し、さらに社会保障の充実をはたらきかけていければと思います。

